

世界をよく知るセミナー 「今、求められる“グローバル人材”」について

5月27日(日)、熊本市国際交流会館にて「世界をよく知るセミナー」を開催しました。「今、求められる“グローバル人材”」と題して、これからの未来を担う若い方々に広く世界で活躍していただけるように、様々な立場で活躍されている方々から現場の声が聞けるように企画しました。

前半は当事業団の多文化共生アドバイザーでもある新潟県長岡市国際交流センター長の羽賀友信氏に海外68カ国を訪問し、そこで培った経験を基に、講演をしていただきました。

講演では、国対国の外交関係であった「国際化」が、もはや、社会のグローバル化によって、人・モノ・金・情報が国境を越え、自由に行き交う時代となったことを前提に、「今、必要とされるグローバル人材」についてお話しが進められました。例えば、言語はあくまでコミュニケーションツールであり、話される内容が大事であること、英語に加え複数の言語能力が必要な時代になっていること、などです。また、日本人として、日本の歴史、文化、そして現在社会について、外国語で説明できる能力が国際分野では要求されています。一方、情報を収集する能力が必要となりますが、様々なメディアからの情報は、何らかのフィルターを通して提供されており、これらの情報を多面的に見ながら真実を捉える力が大切です。

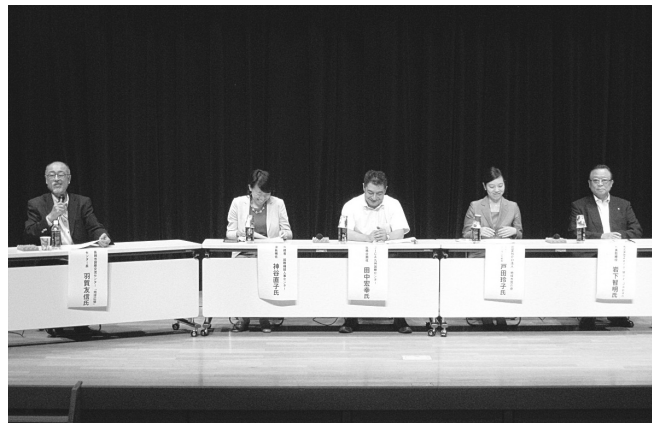


羽賀氏による講演

後半のパネルディスカッションでは、外務省国際機関人事センターの神谷直子氏、JICA九州国際センターの田中宏幸氏、認定NPO法人「地球市民の会」の戸田玲子氏、そして株式会社Zero-Moz Japanの岩下智明氏に出席していただき、国際公務員、国際協力、NGO、民間企業というそれぞれの立場から自分の体験談を基に「グローバル人材」についてのお話を伺いました。それぞれの立場は違っていまいしたが「相手は自分とは違う。その違いを理解しようと努力することが大切であり、また、同時に自分を理解してもらうために、自分の意見を伝えること

が大事である」とお話しされました。

パネルディスカッション後にはパネラーの皆さんへの個別相談会を開催しました。それぞれのブースでは「国連機関で働くにはどうしたら良いのか?」「協力隊に参加するにはどんな資格が必要か?」「NGOを仕事としていて生活はできるのか?」といった具体的な質問が多数出され、予定の終了時刻を過ぎても、熱心に質問する姿が見られました。



パネルディスカッション

今回のアンケートの集計結果では、「いろいろな立場の人の話が聞けて良かった。」という意見が多数あり、「今後の目標が具体的になりました」という声も聞かれました。「世界で働く」といっても、色々な参加の「かたち」や段階があること、さらに、「日本社会で働く」場合にあってグローバルな視点を持つことの大切さを知っていただく機会となりました。当事業団では、これら皆様の意見を基に、今後も市民の国際化のために様々な事業を展開していきたいと思います。



個別相談会